

◆理科の実験道具をビボケイ中に寄贈しました！

■「横浜で“理科を好きになる教室”を開いているボランティア団体」から頂いた実験道具を寄附しました。理科担当の2人の先生は大喜び！発表会の授業も大成功でした。



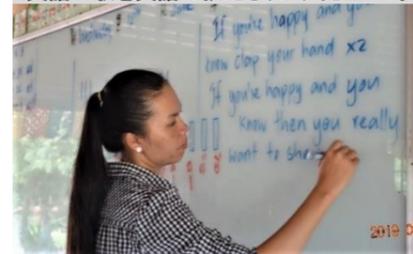
(左から) トーン・ブンコーン校長・セング・サヴォーン副校長・サオ・キムリー先生・リー・ディッナッ先生・小林監事

◆ピアノ指導(続き)

■凄く上手に吹ける生徒が居ました！

30分の個別指導で音符を暗記し、指使いも滑らかに、間違えずに吹ける生徒がいました。これまで1度も音符など読んだことも。これまで1度もピアノなど触ったこともない生徒が、滑らかに、間違えずに上手に吹けるのです。備わった才能でしょうか！男子生徒です。[あれ?! この子、数学が苦手な生徒ではなかったかな?!]と私。個々の練習を中断し全員でこの生徒の演奏を聴きました。自信をもって吹いていました。終わって生徒全員から拍手をもらいました。にっこり笑って嬉しそうでした。次に男子生徒が吹くピアノの伴奏で、生徒たちが「♪幸せなら手をたたこう♪」の歌に動作を付けて英語で歌いました。2日目は、リンダ先生が急用でお休みのため、ソマリー先生と小林監事が指導しました。

英語の歌を英語で教えるリンダ先生～♪



音符を見て練習する生徒たち

音階(ドレミ...)を教えるソマリー先生



◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店  
口座番号(普) 0968555  
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497  
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: [info@ssf.or.jp](mailto:info@ssf.or.jp)



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「によにゅむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញីម によにゅむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゅむ通信

2019年6月号 No.18

公益社団法人  
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia  
(SSFC) 代表理事 住田平吉  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-44  
第二石坂ビル502  
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019  
E-mail: [info@ssf.or.jp](mailto:info@ssf.or.jp)  
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆ビボケイ中学校に「ピアノ」と「理科の実験用具」を贈呈しました  
◆ポットロン小学校とビボケイ中学校で授業発表会の事前の授業研究をしました。

■生徒たちは、全員がピアノをうまく吹けるようになりました♪

音楽の授業のないカンボジアで、「ドレミの位置・指の使い方」からの指導 (左)小林監事・(右)リンダ先生



上手に吹ける生徒が皆の前で演奏しました

■小林監事 登壇！

カンボジアでは義務教育の小中校でも、高校でも音楽の授業はありません。音楽を教えていないのです。けれども大人も子どもも音楽は大好きです。お寺の祭りや結婚式などでは、太鼓・木琴・琴・笛などの伝承民俗楽器も演奏され、それを生業としている人たちもいます。式典では演奏に合わせて民族舞踊や民俗音楽も披露されます。スレイ・ビボケイ中学校の生徒も学校の式典では、民族楽器を演奏し民族舞踊を上手に踊り、綺麗な声で歌います。これらはお大人から子どもへと伝承されます。最近TVの音楽番組で覚えるのでしょうか？恋の歌や英語の歌も上手です。

ビボケイ中学の先生の要請でピアノを50台贈呈しました。

日本の家庭に眠っていたものや学校で廃棄されたものです。日本製品は丈夫ですから、壊れた物もなく2年生50人が使っています。指導は鍵盤のドレミの位置・指の使い方から教え練習しました。

生徒は器用ですぐに覚えめました。次に演奏する曲「♪幸せなら手をたたこう♪」を小林監事が吹き、お手本を示しました。

生徒たちも英語の歌を知っていて一緒に歌いました。リンダ先生がカンボジア語で音符を書き生徒に覚えさせました。早速吹き始める生徒、音符を暗記する生徒、小林監事も、リンダ先生も個別に指導しながら・・・30分間個々に練習させました。

生徒たち全員が、ピアノをうまく吹けるようになりました。(4ページ目にも指導風景写真があります)

「僕もうまく吹けるから聞いてよ！」



小林監事が、お手本を示してくれました！



ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆「授業発表会の事前の授業研究(ポットロン小学校)」



「生徒によくわかる授業の仕方」を聞くポットロン小の先生



授業発表会の事前話し合いをする、ビボケイ中の先生

■チャン・スライ・チャン先生への指導 5年 算数「1Km=1000m」

□1mと1Kmの長さや距離を「教室の入り口から田んぼ近くの木まで」などで具体的に教える。1mの物差しで、生徒の身長、歩幅等で、1mの長さを実感させる。机や教室の長さ・廊下の長さなど具体物の長さを予想させ実測する。生徒が1mの長さを分かったうえで、1Kmを具体物を通して予想させる。

□ m を Km に換算する方法を教える。

100m は 0.1Km, 10m は 0.01Km, 1mは 0.001Kmであること  
これを 1Km=1000m をもとに分からせる。

□練習問題をやる。

300m=「 」Km, 2575m=「 」Km, 28m=「 」Km

ノートを隣の生徒と交換して答え合わせをする。正答の生徒に黒板で問題の解き方を説明させる。必要に応じて補足する。練習問題を出し、4人グループで答え合わせをする。4人の生徒が自分の解答の考えを説明する。間違えた生徒も自分の考えを説明して間違えた原因を理解できるようにする。先生は「生徒によくわかる授業」の仕方がわかったようで、笑顔が見えるようになった。指導案を書くことを宿題にした。8月22日の授業が楽しみだ！

▼チャン・スライ・チャン先生の意見：

今までやったことがない教え方なので楽しい授業が出来ると思う。今までは、1Km=1000mを暗記させていた。1mの長さを、背の高さや歩幅等で具体的に体験を通して教えると長さの感覚を覚える事が出来る。教室の幅や廊下の長さも予想がたてられる。その上で1Kmの距離も正しく判断できると思う。授業のまとめで、グループの生徒4人がお互いに解答を説明し合うことも、とても良いと思う。

■イエン・スラッ先生への指導 1年 国語

「足のある子音の読み方と字を覚える」

1) 前回の復習から始める

①前回教えた子音の字を書いたカードを、指名した生徒に読ませる。正答なら全員に読ませる。同じようにして前時に教えた字を全て行う。  
②前回教えた子音の字を読み上げて、生徒各自の黒板に書かせる。先生は全員を見て調べる。同じようにして前回教えた字を全て行う。

2) 当日の学習は

①今日教える字を見せて、生徒に「読み方」を教える。生徒は、先生の発声をまねて読む。②教えた字を黒板に書き「書き方」を教える。生徒は、各自の黒板に字を写して、先生に見せる。③先生は、間違えている生徒の字を、ひとり一人に正しく教える。

以上を繰り返して今日教える8文字の「読み方・書き方」を教える。

3) まとめとして

①黒板に今日教えた8文字を書いて、生徒に読ませ覚えさせる。

②「かるた取り競争」をする。4人1組、全6組に、今日教えた8文字のカードを配る。先生が読むカードを生徒が競争で取る。

とても楽しい授業が出来ると思い、わくわくする。見学に来た先生の参考になる授業が出来ると思う。

▼イエン・スラッ先生の意見：

今までやったことがないとても良い教え方だと思う。生徒に授業時間の中で覚えさせる事が出来る。

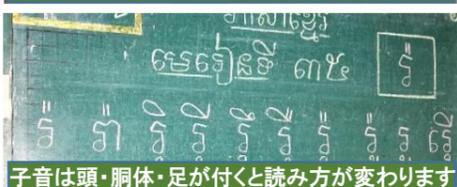
かるた取り競争は授業が盛り上がる。競争してかるたを取った結果で、生徒がどれだけ今日の授業を覚えたか評価できる。



ちよっぴり自信が付き笑顔で教えるチャン先生



黒板に字を書いて覚える1年生



子音は頭・胴体・足が付くと読み方が変わります



生徒に楽しく教えるスラッ先生

◆「授業発表会の事前の授業研究(ビボケイ中学校)」

■ライ・ソマリー先生の計画 3年数学「立体の体積・直方体と四角錐の体積の求め方」

自作の教具で体験させて覚えさせる。底面と高さと同じ自作の直方体と四角錐を用意して、名称を教える。体積の求め方を教える。四角錐の高さについて考えさせる。2つの立体の体積の求め方を教えて、各自に体積を計算させる。底面と高さと同じ場合、直方体の体積は四角錐の体積の3倍であることも教える。90分間授業をする。

▼住田の感想：具体物を使って、分かりやすく楽しい授業をしてほしい。直方体と四角錐の実物を用意して生徒に見せる。名称を教えて2つの立体の高さについて考えさせる。底面積と高さと同じである場合、直方体の体積は四角錐の体積の3倍であることを実際に土を入れて確かめると理解が進む。計算によっても確かめさせるとよい。多くの場面で先生が教えるのではなく、生徒に考えさせる授業を見せてほしい。

■ソクン・リンダ先生の計画 3年英語「時計の読み方」

50分間全部英語で授業する。I get up at six.など、1日の動きに合わせて、正しい時間の表し方を教える。これまでは8時10分は、eight・tenと教えていたが、It is ten past eight. と教える。英語で質問して、生徒に英文で書かせて覚えさせる。当日の中心は「時計の読み方」を教えること。他校の先生は「教具が足りないから良い授業ができない」と言うが、その考えを変える授業をしたい。黒板に時計の図を書くだけでもわかりやすい授業は出来る。

▼住田の感想 1時間の授業展開を参観者に分かる授業を見せて欲しい。導入時は生徒の興味・関心の高め方。まとめで生徒の理解度の調べ方と覚えさせ方などが重要となる。パッコン郡内の先生が皆、1時間の授業を英語で進めることが出来たら、生徒も先生も英語力が高くなる。

■テック・サーブン先生の計画 1年国語「肯定文と否定文・命令文」

「生徒全員に理解させます！！」

小学校の国語で教えることは複雑な子音の読み・意味・書き方、母音と子音で1つになった読み・意味・書き方など単語を覚えることが中心となる。生徒は日常会話で口語文を話しているが、中学では文語文を教える。

・文法を理解させて肯定文の作り方を教える。

・日常会話で同じ意味だが言い方を変えた話し方を発表させる。

当日は「私は市場に買い物に行きます」の文語体の文章と文法を教える。まとめでは、生徒に口語体の文章を文語体の文章に変えて発表させる。

▼住田の感想：日頃から事前の勉強をしっかりと授業に臨んでいるので、生徒と一体の授業ができると思う。資料なども無く、教科書中心の授業になるが、生徒の意見がたくさん出る活発な授業にしてほしい。

「単語を並べ替えて文章にする。単語を生徒に考えさせて文章を作る。生徒が話す口語体の文章を他の生徒に文語体に直させる」等、ゲーム化して教えても楽しい授業が出来る。



テック・サーブン先生の授業風景

■サオ・キムリー先生の計画1年理科「電気が通るもの通らないもの」

教科書を読ませ、教科書の図を黒板に書いて説明する。石やくぎなど教科書に書いてある材料で「電気が通るもの・通らないもの」を生徒に予想させ、教科書を読んで分らせる授業をする。

▼住田の感想：SSFC支援の実験器具(乾電池セット・豆電球・銅線)をたくさん日本から持ってきた。簡単な実験なので小グループで生徒に自由にやらせるとよい。「電気が通るもの・通らないもの」も身近にある材料を生徒に集めさせるとよい。

生徒に実験をさせる時は、①実験する目的を分らせる②実験図を書かせる③実験結果の予想を立てさせる④実験結果を図と文で書かせることを教えて習慣つけることが必要である。



サオ・キムリー先生の授業風景

■リー・ティンナツ先生の計画 2年理科「水が流し出すもの」

教科書に出ている実験をする。「インスタントコーヒー」と「ティーバッグ」を使って実験する。生徒4人でグループを作り、水と湯を入れた2個の透明なカップで状態を観察させる。

▼住田の感想：この学習は生徒が経験的に知っていることなので、実験によって生徒に「何を理解させるか」が大切だ。水とコーヒー(粉末)やティーバッグ(茶葉)との間で何が起きるのか。時間の経過とともに濃さが変わってくることを目と味で調べるとよい。

湯と水の時の違いを比べるのも良い学習になる。さらに実験の仕方、記録の取り方も指導することが大切だ。



リー・ティンナツ先生の授業風景